

中小企業庁 支援事業に

家畜排せつ物の活用探る

北見工業大学と、消臭剤や土壌改良剤を製造販売する北見市の「環境大善」（窪之内誠社長）の共同研究が、中小企業庁が行う本年度の「戦略的基盤技術高度化支援事業」の採択を受けた。

研究費として本年度は2400万円が交付される予定で、家畜の排せつ物に含まれる、微生物の増殖を促進する物質の特定などを目指す。

研究テーマは「光合成微生物増殖促進剤の純粋培養製造技術開発」。家畜のふん尿には、光合成微生物「シアノバクテリア」の生育を

促進する機能があることは分かっているが、これまで具体的な原理は解明できていない。この研究が進めば、廃棄物だった家畜の排せつ物に付加価値を与えることができるという。

北見工大オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの小西正朗教授は「将来的にはバイオ産業全体の効率化や、二酸化炭素の削減につながる事ができる」と説明。環境大善の窪之内社長も「次世代バイオ産業の発展に役立ちたい」と話す。

事業は中小企業の技術を高め、製造業の競争力の強化や新産業の創出が狙い。本年度は全国で326件の申請があり、そのうち105件が採択された。

（樋口雄大）